

2006年記録会は10月15日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)です!

2006年記録会は11月19日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)です!

ようやく秋になって一斉に大宮田んぼへ。まだ少し水が残っていますが、やはり広いね。久しぶりなので、まずは挨拶回りです。みんな懲りずに来てます・狂った智恵子は東京に空がないと言う・とは関係がないが、ものも言わずモクモクと飛ばしている人もいて、似ているかも集団。これで再び大宮通いがはじまる訳ですが、日本選手権までわずか1ヶ月チョットしかありません。今後ともケガ無く事故無くやりましょう。会報はもう10月号です。

記録会報告	2006年8月記録会 / HLG	2006年8月記録会 / PLG、
	2006年9月記録会 / HLG	2006年9月記録会 / PLG
	06年まったけ大会報告	
お知らせ	国際級ジュニア大会案内	
FFサロン	FF徒然草その5 石井英夫	HLG世界記録達成 石井満
	UHLGのらせん不安定	
雑談天国	接着剤とGM 佐藤幸男	飛行場探しの思い出
編集後記		

2006年8月記録会の結果(HLG/CLG)

8月HLG記録会報告

平尾.....

天候不順の今年、何故か夏がキツイ(年のせい)。今年グリーンパークは2回目ですが、さすがに小型FFのメッカ、早朝から人が多い。しかし、駐車場台数の少ないのが気になるが。ここもしいに環境が悪くなって(周囲に建物が増えてきた)、気流が乱れヒコーキが予想外の動きをする。

競技の方は、夏休みの会員もいて少ないようにも思うが、それでも19名と立派。この日は幸いにして朝は気流が安定していて、好記録が出そうであるが、暑さとの戦いでどうなることやら。それと年を取るとちびた号は小さすぎて投げるのが難しい上に、手持ちのヒコーキが古くなってガタがきたらしく、相乗効果で飛ばなくなっている。ところが他の選手は投げが難しくても見事な高度に投げる。年寄りかねらっている振り投げは、残念ながらここまで小さくなると効果がない。

さて、成績の方は久しぶりに美声の池田選手が来た。しかし、意外と気流が悪く、且つ暑さのせい。パーフェクトではなく3マックスの189秒、この条件では立派な成績だ。2位は高さの出る菅野選手だが1マックス、又30秒台が3回とやや寂しい。3位は腰の治った井村選手、気合いは良いのだがサーマルに乗り切れずに20秒台が多い。4位は平林の助選手で、安定しているのは普段から狭い公園で飛ばし慣れているからか、しかし、やや気流に嫌われた感あり。ここからが150秒台となって5位はおだやかな星野選手、30秒台が3つで155秒、ま・競技は柄の悪い方が勝つ。6位もガラのイ小川選手が1秒差で続いている。5位から8位までが150秒台である。終わってみるとこの日は全体的には気流読みの難しい日で、成績が150秒前後に集まっている。その他では相沢会長が8位と頑張ったほう。元祖・田中選手は初めは「さすが・・・」という投げをしていたが1回目のマックスのみで、日頃の不養生がでて150秒に1秒足りなかった。新進の稲葉選手は練習しだいでこれからは楽しくなる。パワーの木口、寺田の両選手は、訳がわからないうち終わったのでは。

小型機になると大型ほど高度差がないのに、成績では随分と差がでる。若手で肩のイイ選手でも大した成績でないのは、狭い公園で飛ばす雰囲気と気流の相性が出るのではと思う。終わってみると、この炎天下19名もよくぞ・集まってくれたものです。感謝!!! もっとも毎年8月は恒例の田中さんの図書券争奪戦があるから来るのかな。でも田中さんも年金生活になるとダメかも。

HL G記録 8月20日 曇り、気温29°北北東の風1~2m 40秒MAX、10投中5投の合計

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	備考
1	池田 昇	31	25	40	40	38	25	18	29	26	40	189	
2	菅野 俊行	37	13	29	33	27	20	26	40	38	26	177	
3	井村 真三	28	5	29	27	40	19	35	25	40	29	173	
4	平林久之助	29	24	28	23	27	37	40	28	26	27	162	
5	星野	17	12	28	17	33	12	19	37	37	20	155	
6	小川	20	26	32	18	28	23	22	30	27	37	154	
7	吉田 利徳	15	24	25	22	22	30	28	35	35	23	153	
8	大嶋 廣	22	20	21	20	24	20	34	31	40	23	152	
8	相澤 泰男	29	26	29	28	40	21	16	19	18	25	152	
10	田中 晋	40	2	8	19	27	16	32	17	31	4	149	
11	木口 雅之	15	10	22	32	23	37	26	23	21	28	146	
12	寺田	23	21	20	20	25	40	27	19	12	30	145	
13	三田 祐一	14	26	29	6	26	17	23	30	18	23	134	
13	稲葉	21	20	22	11	31	8	40	18	12	15	134	
15	三俣 豊	22	18	9	23	23	20	20	25	18	25	118	
16	大八木	1	26	28	17	4	18	17	2	16	20	109	
17	木立	15	15	12	12	26	19	21	18	16	24	108	
18	吉野	13	22	18	23	19	15	17	13	24	19	107	
19	平尾 寿康	10	17	11	25	2	8	8	3	4	16	79	

8月PLG記録会報告

佐藤・平尾・・・

年1回のチビタ記録会。天気もよく比較的穏やかなコンディションでしたが、気流が余りよくなかったため、5MAXは地元の三辺(みなべ)さん(優勝)のみでした。2位は倉田さんで2秒落ちで残念でした。3位はメキメキ腕を上げて来た小嶋さん(3秒落ち)、常勝河田さんはチビタの練習不足でタイムが延びず4位。5位は81才の長老内山さん。(頑張っています。) 以下省略。

追記: 暑いのでお年寄りの多いパチンコは倒れないように、短時間勝負がいい。その割りには成績が良い(190秒以上が4名)のは、日頃から狭いところで飛ばしている訓練の成果か。

この日、紙ヒコーキ・二宮さんの要請があり、紙のグループのメンバーの米寿(八八才)の人を囲んで記念写真を撮りたいとの事で、ランチャーズは枯れ木になった。いざ写真を撮る段になって「あれ、八九才がイナイ」と言うことで探すと、何とヒコーキを飛ばして広場の向こう側をポタポタと歩いている。「コリャー、帰って来るまで10分はかかるぞ」とみんな休憩、お元気なことで……。この日石井英夫氏が来ていたら「石井さん、若手は後ろに並んで」と言われるくちで……。ま・何はともあれ、自分が「今日は最長老」等と言われたい為にも長生きして下さい。ついでに二宮さんは80才。

PLG記録 8月20日曇り晴、気温29°北北東の風1~2m 40秒MAX、5/10投の合計

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	備考
1	三辺 雄司	27	40	27	40	40	40	40				200	
2	倉田 泰蔵	30	38	24	40	22	40	40	40	31	31	198	
3	小嶋 常男	34	30	40	28	40	36	40	34	37	40	197	
4	河田 健	22	39	15	24	40	40	26	38	38	26	195	
5	内山日出男	4	31	18	5	29	25	40	29	40	35	175	
6	佐藤 幸男	18	27	32	24	18	36	40	32	25	26	167	

2006年9月記録会の結果(HLG/CLG)

9月HLG記録会報告

平尾・・・

今秋初めての宮田んぼです。みんな待ちかねていたようで25名が参加しました。稲が2ヶ所ほど残っていて、ちょうどその辺りにHLGが降りそうで、気になって発航場所を変えたり、もとの場所に戻ったり。そんなことで終了時間を30分延長しました。天候はホドホドで曇天弱風、大きなサーマルはないが小物がチラホラの難しい条件でした。しかししかし、この条件でなんと6マックスを2人も出すのだから凄い。日本が誇るFF界最若手集団・ランチャーズは高齢化と関係がない??? この日も年寄りが何であんなに高く上げると、年甲斐もない人が多くて困ったものです。ま・若手が40才超なので仕方の無い面もあるし。

全体的には広い場所で飛ばすのが久しぶりなので、調子はみんな今一の感じ。しかし、しだいに本調子になって、ねばい関西弁の井村選手のだみ声や、池田選手の美声が響いたりして、楽しい1日でした。これだけ多いと一通りの声かけだけで、すっかり疲れた。

競技はしだいに熱くなってきて、優勝を争ったのは最後まで頑張った前出の2人・井村、池田の2選手、2人とも最後の2回をマックスで締めくくったものの、そこはしぶとい「カンサイ」井村選手が1秒差で優勝、でも久しぶりだなあ。美声の池田選手はボイストレーナーに習ったら、投げもさらに良くなるかも。でも2人とも振り投げでなく、野球投げなのはナンデやねん。3位は今一つ不調で追い込みが効かなかった春山選手、惜しいおしい。4位まで来たのに惜しい、もうチョイ三田選手、髭を剃れば勝てるのでは。5位は、今売り出し中の木口選手、もう一息だ。6位はひっそりと星野選手、元々はコワイ選手いずれは優勝か。7位は久しぶりに来ました、キマシタおじ様? 大矢選手、復活する日は間近か。8位はラジコンにかまけている内はしばらく勝てんね、菅野選手。9位は本調子にもう少しの野中選手は、次回かな……。10位は何となく平均点の斉藤パパ、奥様が優しくて家庭が良すぎると勝てないのかも。

以下はカッテレンの個人評・若手?の稲葉選手のヒコーキは上反角が足りな目、教えると飛ぶようになるのでみんな黙っているアタリ、ランチャーズも意地が悪い。この日寺田選手は体重が投げに乗らず身体が後ろに反り返っていた。年甲斐もない小川選手はよく上がる、これで優しければ勝てるのに。今回は目がなかったが、高々度組の吉田、大八木、菅野、三俣選手、最近のランチャーズはよく上がる、30mはいい。今関選手何となく飛ばしている感じで、ん……。ヒコーキをよく見ると上反角不足だった久しぶりの久保選手、室内機のママではダメよ、古いヒコーキだけどなあ。室内HLG世界新を出した石井満選手は、気が抜けたのかこの日ゼンゼン飛ばない、ナンデ……。記録にはないが、石井のあかりちゃんはこの日不調で不機嫌、と言うより機体が大きすぎるのかも。機体が狂いっぱなしの吉敷選手は、機体を取っ替えひっかえてもダメでした。しばらくぶりに顔を出した吉野選手、気が多すぎてこの日も不調。相沢会長が多忙で来られないのは寂しいが、この日も楽しい雰囲気で行ったのだからランチャーズとしては、しかたないんでないの。

9月HLG記録 9月17日大宮田んぼ 曇り晴25度 風1~3m/s 60秒MAX 7/10投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計	備考
1	井村	56	60	34	60	55	60	60	46	60	60	416			416	
2	池田	31	60	44	47	60	60	55	60	60	60	415			415	
3	春山	42	60	32	60	57	53	60	55	33	38	387			387	U
4	三田	56	57	55	50	54	52	60	60	40	34	382			382	U
5	木口	45	56	16	34	50	60	60	31	47	60	378			378	
6	星野	49	50	60	39	52	60	34	26	17	51	361			361	
7	大矢	60	49	53	31	40	48	60	35	39	46	356			356	U
8	菅野	39	47	35	60	48	49	47	60	31	41	352			352	
9	野中	41	53	49	53	07	24	50	40	60	42	348			348	U
10	斉藤バ	35	45	51	33	53	40	12	05	56	36	316			316	U
11	平尾	31	60	40	0	20	07	24	57	42	53	307			307	U
12	寺田	24	37	44	33	16	41	38	53	33	60	306			306	
12	小川	25	44	47	41	42	42	42	25	30	48	306			306	
14	今関	60	30	25	43	60	42	22	46	21	13	303			303	
14	久保	23	05	35	06	31	32	60	42	43	60	303			303	
16	大八木	38	33	37	37	55	41	34	43	03	37	288			288	
17	吉敷	13	25	21	45	35	40	40	53	28	40	282			282	U
18	石井満	32	32	18	39	08	16	46	11	52	60	277			277	U
19	吉野	34	32	32	54	24	29	37	34	50	32	274			274	
20	稲葉	35	51	34	30	42	40	26	38	25	26	270			270	
21	三俣	42	39	43	35	36	08	30	26	25	25	251			251	
22	吉田	50	46	40	39	50	-	-	-	-	-	225			225	

注：Uは翼端投げ、

9月PLG記録会報告

佐藤、平尾・・・

5ヶ月振りの大宮記録会、心配していた天気も雨がなく、くもり空で比較のおだやかなコンディションとなりました。参加者は12名と盛大でした。結果は4名のフライオフとなりましたが、常に上位入賞の河田さん(300+61秒)が優勝。2位は長老(81才)の内山さん(300+53秒)。3位は倉田さん(300+36秒)。4位はベテランの石井英夫さんでした。今日は松戸の21世紀の森・飛行クラブ・3名の参加があり、杉本さん(292秒)で5位、工藤さん(290秒)が6位となり、大健闘でした。

追記：先日熊谷ドームでハンドランチの世界記録を出した石井満さんの娘さん(小5)がエントリーしましたが途中でリタイア。機体は室内用PLGで60秒以上の記録が出ているとのこと。(佐藤)

この日以来みると何と、初めて松戸から大宮田んぼにPLG部隊の殴り込みです。おかげで参加者12名と激戦です。東大島ではコテンパンにやられているので「地元じゃ、負けるんじゃないぞ」と叱咤激励した甲斐があってランチャーズが上位を独占し、どうやら顔がかたちました。もっとも松戸勢は普段狭い所で飛ばしているの、少し勝手が違った様子でしたが。

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計
1	河田 健	60	60	60	60	60						300	61	56	361
2	内山日出夫	60	45	08	08	60	60	49	60	50	60	300	53	53	353
3	倉田泰蔵	51	60	27	60	59	60	60	59	60		300	36	36	336
4	石井英夫	48	60	50	60	60	50	55	60	60		300	28	07	328
5	杉本春吉	50	41	55	60	29	56	45	60	56	60	292			292
6	工藤陽久	48	35	50	60	60	52	59	60	43	51	290			290
7	小嶋常男	07	52	60	60	36	33	10	57	44	60	289			289
8	篠原嘉男	56	39	39	50	44	32	43	60	30	60	270			270
9	梅沢久男	28	37	38	37	32	25	22	48	42	49	214			214
10	佐藤幸男	06	16	37	37	33	43	25	22	24	32	182			182
11	渡辺浩一	02	28	15	21	21	24	41	29	29	24	151			151
12	石井あかり	27	07									34			34

注：フライオフは1/2回、90秒マックス

2006年まったけ大会HLG他の報告

平尾・・・

今年もまったけ大会に行ってきました。14号台風が日本列島の東側を通過した直後でした。しかし、台風が飛行場の東側（右側）を通過して右上に位置する場合は、ほぼ快晴微風と言うのがランチャーズの天気予報で、ほとんど当たります。この日はまさにズバリの中的好条件で楽しみました。暑いぐらいでしたが風が無く回収も楽、1つ残念だったのは成績が良くなかったことです。でも、ハンドランチャー最高年齢では仕方ないか・・・。

この日は参加者10名と名古屋としては多い方で、激戦でした。しかし、ベテランも頑張ったものの、好調の生駒選手と鉄人・伊東選手が入ったものの、他は新進の連中にやられました。とにかく肩が良く、到達高度の高いことに感心しました。多分ベスト高度で30mは行っているでしょう。園田一族の紙HLGの育ちで、わずかなアドバイスで見ると上手くなっての好成績でした。

見た目の高度については、人間の目の誤差について考えさせられました。と言うのはこの日、伊東選手持参のアメリカ製の機体搭載型高度計（重量3g）で高さを調べたからです。計測では伊東選手の最高高度は43mとのことで、私も搭載してテストしました。1回目やや低いかなと思った高度は20mでガックリ。2回目ほぼ満足出来る高度が出たのでは30m出たかと思うと26mでした。ナンデ・・・と思ったのですが、しかし、常日頃自分の高度をベストで26~27mと考えるのとはピッタリ合っているのです。それと例え計測器の誤差があっても、差はキチンと出るはずですが。その後冷静に伊東選手の高度と自分のとを比較すると完全に1ランク低い。どうも人間の目は20m以上になるとその差がわかりにくい様で、明らかな高度差がある場合は、その差は5m以上ある様です。これまでの経験でもグライダーの離脱高度50mとHLGの高度の比較でも、一見差がないように見えるからです。高度が高くなると人間の目では2~3mの差は判定不能の様で、明らかな高度差を感じた時は最低5m以上の差がある考えるべきです。見かけではそうは思えませんが、伊東選手と私の高度差は実に17mもあるのです。よって野球投げでも「上がっているな」と言う高度は30mが正しいと考えます。

話をもどして、地元の掛山さんは、到着前の話では、前大会で投げ過ぎで腕が内出血して戦闘不能となり、計時に専念するとの事でした。ところが本人が来て言うことには、あれから順調に治って調子が良いとのこと。当然、地主が投げないと寂しいですので私達は歓迎でした。しかし、実際は本人の認識と違って、精神的な後遺症が残っていたようです。競技が進むにしたがって、したいに高度が取れな

くなって、上昇頂点での伸びがない。本人も首を傾げながら残念そうでした。怪物・伊東選手は年中好調で、大きな機体が上がる、上がる。しかし、勝つことと上がることは別なんですね。ここがH L Gの悩ましいところです。関西の年甲斐もない園田選手は高度は十分ながら、この日は不調・・・かな。若手にやられました。これからは、紙ヒコーキから入ってくる新人はスゴイ。特に、山本、岡崎、毛利なんて名前が居たら要注意です。今回の生駒選手は、またもサーマル読みがアタリの大会でした。日本選手権までこれが続くかどうか・・・。

H L G以外では、エンジンの81才・岩村さんが頑張って2位、フライオフでオーバーランをして脱落でした。まだまだ若いからやれる。ゴムでは東京からの遠征組・嶋崎、菅原、松尾各選手が上位を独占しました。名古屋では小型混合級は人気があるようで、18名が参加。ライトプレーンクラスが主でした。

2006年松茸大会成績 2006年9月24日鈴鹿市池田町田んぼ、晴れ、風速1～2m

E / F 1 J

順位	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	F.O.	合計
1	宮本茂樹	120	120	120	120	120	180	780
		4.45	3.99	5.24	5.15	5.2	2.57	
2	岩村慧一	120	120	120	120	120	0	600
		5.7	5.09	5.58	6.23	5.96	3.67	
3	吉川強	40						40
		3.13						

R / F 1 G

順位	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	F.O.	合計
1	嶋崎和利	120	120	120	120	120	58	658
2	菅原隆郎	120	120	120	120	120	0	600
3	松尾哲郎	120	120	120	112	120		592
4	白井正己	111	77	75	81	120		464
5	鈴木友信	0	90	0	-	-		90

G / F 1 H

順位	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	合計
1	高橋浪男	120	120	120	120	120	600

小型混合級

順位	氏名	1R	2R	3R	F01	F02	F03*	合計
1	川阪末継	60	60	60	120	180	5	480
2	清水和夫	60	60	60	120	180	30	480
3	松坂静雄	60	60	60	120	132		432
4	野口実	60	60	60	120	111		411
5	村上英俊	60	60	60	120	74		374
6	今村利勝	60	60	60	120	72		372
7	岸田義和	60	60	60	115			295
8	白井正己	60	60	60	109			289
9	吉田新一	60	60	60	96			276
10	梶原正規	60	60	60	93			273
11	宇津秀夫	60	60	60	88			268

12	佐野康仁	60	60	60	82							262
13	竹内源治	60	60	60	78							258
14	林裕生	60	60	60	76							256
15	石田弘	60	60	60	75							255
16	鈴木勝	60	60	23								143
17	北村四郎	60	60	9								129
18	野々村義則	60	26	0								122

*F03 は 1 分に近いほうを上位としました。

HLG (ラウンド制) 60秒マックス、1,2Rは90秒マックス 5 / 10投の合計

順位	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	10R	合計
1	生駒大造	9	*90	20	*58	*60	-	*60	-	*60	-	328
2	山本和文	48	*90	*60	-	*60	-	29	*35	42	*60	305
3	伊藤哲男	36	*61	*60	-	*60	-	42	*46	48	*60	287
4	岡崎一郎	*76	26	28	*60	35	*42	*60	-	28	*35	273
5	毛利修	33	*54	56	*60	*50	30	*60	-	26	*42	266
6	園田宏樹	*38	34	*60	-	*57	42	35	*60	35	*46	261
7	平尾寿康	*90	-	*41	30	*27	10	*39	*46	*39	26	243
8	掛山吉行	43	*45	26	*38	27	*47	23	*29	22	*54	213
9	小笠原憲夫	20	*45	*26	*24	5	*13	*39	23	5	*41	164
10	田根信孝	*49	31	16	*20	*28	20	*12	9	8	*5	160

お知らせ

平成 18 年度模型航空フリーフライト国際級 F1G、H、J ・HLG ・LP 競技会要綱

主催	日本模型航空連盟
大会委員長	日本模型航空連盟 会長 東 昭
競技委員長	FF委員会委員 高田 富造
競技役員	FF委員会委嘱
期 日	平成18(2006)年11月26日(日)、雨天の場合は12月3日(日)
会 場	大中田んぼ(滋賀県東近江市能登川町大中)
種 目	フリーフライト国際級F1G,FIH,FIJおよびHLG A、HLG B、LP (F1G,FIH,FIJには国内級機体での出場は不可)
参加資格	当日有効の模型飛行士登録者
申込方法	郵便振込み用紙に必要事項を記入して、期日までに下記に申し込むこと。 郵便振込み取り扱い口座番号 00990 2 279903 加入者名 村上 善信 郵便振替払込請求書兼受領書を受付へ提示のこと。なお、いったん納入した参加費は理由の如何を問わず返却しない。
申込期間	平成18(2006)年10月11日(水)~11月8日(水) (消印有効)

参加費	2,000円(1種目)、高校生以下は500円
規定競技の方法	F1G、H、JはFAIスポーツ規定に準拠し5ラウンドの競技を行う。タイの場合決勝飛行を行い順位を決定する。最大計測時間は第1ラウンドは3分、第2ラウンド以降は2分とする。 F1Jのモーターランは5秒とする。状況によりラウンドの最大計測時間、モーターランを変更することがある。 HLGについては、最大計測時間60秒(第1ラウンドは90秒)の飛行を1ラウンドに2回を行い、飛行時間の長い方の飛行をそのラウンドの公式飛行として5ラウンドの総計で順位を決定する。タイの場合決勝飛行を行い順位を決定する。 LPについては5ラウンドの競技を行なう。最大計測時間は第1ラウンド2分、第2ラウンド以降は1分とし、5回の合計で順位を決定する。タイの場合は決勝飛行をおこなう。
競技時間	7時~7時25分現地受付。7時30分ラウンド制による競技開始。13時決勝飛行開始。ラウンドの時間等の詳細については競技会当日に発表する。
保安・損害賠償	人畜土地建物その他の物件に対し、競技その他により損害を与え、賠償が必要な場合は参加者が全額を負担する。
機体検査	随時検査を行う。この検査で不合格の場合には、それ以前の記録は全て無効となる。
選手の責務と連絡先	選手は計時員の補助員または計時員として計時に協力すること。 各団体のFF委員又は競技実行委員 村上 善信 〒590-0012 堺市堺区浅香山町2丁目4-13-205 TEL&FAX 0722-29-2605 機体の規格、詳細な競技規定等についての問い合わせも上記へすること

振込用紙の通信欄に以下の項目を記入する事

参加種目：F1G、F1H、F1J、HLG A、HLG B、LP、及び JPN ナンバー

FF文化サロン

あほうどり風FFつれづれ草 その5

まちだ - あほうどり 石井英夫・・・

ボブ・ホワイト氏は、機体デザインにおいても頑くなで、氏の長いF1B模型歴でほとんど機体デザインを変えなかったことでも知られています。そう、あの双垂直尾翼タイプのボブ・ホワイトデザインですね。ところが小生、その不変のボブ・ホワイトデザインにケチをつける気は毛頭ないんですが、あのトレードマークになっている双垂直尾翼形式がどうにも腑に落ちないんです。ほかの誰もやっていないから、というんじゃないありません。あの尾翼形式にどういう効果があるかがです。あれを、ボブ・ホワイト流のトレードマークだから、とってすますのは簡単ですが？それですますのは小生の気分のほうがおさまらない。そこで、やや強引ですが小生流の推理で突っついてみます。

小生にはまず、水平尾翼にも上反角というのが不審です。図面や写真で見るボブ・ホワイト機の主翼には、かなり大き目の上反角がついていますが、主翼に上反角、尾翼にも上反角では無用にローリング(横ゆれ)周期が早くなります。小生はもうひとつ別の理由があって、ある時期水平尾翼には下反角を付けていたことがあります。ただし、下反角つき水平尾翼というのは、平時には落ちついた滑空をする

のでいいんですが、横方向の動きに強情なところがあり、ときに大事を引き起こす原因になります。さて、上反角つき水平尾翼の利点は、と考えると、滑空時の横ゆれぐせというのはあるんですが、その横ゆれぐせが幸いして、何かの気流異変による急バンクからの立ち直りの早さで、スパイラル落下のピンチを救うと、その効能はあるんじゃないかと想像できます。上空高く悠々と滑翔していたFF機が、予期せぬ気流異変が何かで、突如発狂してスパイラル落下してくることがあります。「らせん不安定性」といって、FF機の根元的な持病のひとつで、案外にこの対策がむずかしい。現行のFF機は総じて機首



が短く、後モーメントが長くなって動安定性が増しているのに、スパイラル落下のアクシデントは昔より少なくなりましたが、それでも気流状況によっては、ままたま見かけることがあります。昔のFF機は今よりずっとスパイラル落下に弱かったのです。

ボブ・ホワイト氏のF1G

小生の例では、1976年、富士滝が原演習地における日本選手権F1B競技で、絵に書いたような上空からのスパイラル落下をやらかし、ちょうど取材に来てい

たNHKカメラマンに意地悪く写しとられて、午後9時の「ニュース9」番組で天下に恥をさらしてしまいました。気流異変もさることながら、ローリング防止の下反角つき水平尾翼がアダをしたのじゃないかと、あとになって反省したことです。

ボブ・ホワイト機の上反角つき水平尾翼について、もしや？と思うのはそのことです。もしや不時のスパイラル落下に備えての保険ではないかと。小生米国の競技場風土というものをよく知らないんですが、ボブ・ホワイト流上反角つき水平尾翼というのは、そのもしや、対策ではないかという小生のこの推理、当たっていますかどうか。もうひとつ、ボブ・ホワイトデザイン機への不審というのは、これこそボブ・ホワイト機のトレードマークになっている双垂直尾翼形式です。こいつはもっとわかりませんね。面積うんぬんの事でもなさそうだし、収納には不便きわまりないこんな出っ張り、と思ってしまうんですが、ボブ・ホワイト氏、何のつもりか？ 強いて考えれば、端っこに翼端板を立てることで、いくぶん水平尾翼の空力特性が向上することです。つまり、ウィングレット効果によりアスペクト比が大きくなる理屈で、水平尾翼の利きが良くなる。理論的には「揚力傾斜」が大きくなるといいます。さてはこれかな、という気もしますが、どうしても、というほどの効果でもない。もうひとつ考えられるのは、翼端板の働きで上反角つき水平尾翼による過度の横ゆれを防止する狙いがあるのではないかと。つまり、上反核つき水平尾翼プラス翼端板でワンセットという考え。いや結局わかりませんね。以上の推理はみんな外れで、そんな理屈じゃないの、オレのヒコーキのトレードマークがこれなの、と単にボブ氏流パフォーマンスの誇示に過ぎないのかも知れない。要するに、人がやらないことをやってみせたいヘソ曲り精神。これがいちばん当たりという気もするんですが、さてどうでしょうかね。

以上、勝手気ままにボブ・ホワイトワールドの特異性をあげつらってきましたが、ボブ・ホワイトワールドにはもうひとつ大きな特異性があります。それはボブ氏の長いFFモケイ歴というのは、一貫してゴム動力専業のように見えることです。情報が無いので、エンジン機やグライダーをやっているボブ・ホワイト氏というのをイメージすることが出来ません。ボブ・ホワイト氏、ゴム動力種目以外には興味がなかったんでしょうか。



ボブ氏のオールドタイマー

ここで対照的に思うのは、国際級なら何でもやった、これも F F 同時代の巨人、デンマークのトーマス・コスター氏のことです。コスター氏といえば F 1 C 垂直上昇パターンの創始者で、エンジン機種目のフライトパターンはコスター以前、コスター以後と 2 分されます。この人はまたボブ・ホワイト氏とは逆方向へ向う意地張り型で、誰もがやらない超難物メカ開発型。F 1 C の可変フラップ翼システムはその後どうなったのでしょうか。

コスター氏、F 1 A、F 1 B の両種目でも世界選手権で優勝しているんですね。1964 ~ 1965 年版のザイク年鑑にコスター氏設計の F 1 B (当時はウェークフィールド級、ゴム 50 グラムの時代です) 優勝機図面が載っています。F 1 A グライダー優勝のほうは、どこかの大会での代理飛行だったようで、もしそうなら正式の優勝ではないのかもしれませんが。これを教えてくれたのは芝地正履氏で、あのデブッチョのコスターが息せき切っ

てグライダーを引っ張る姿を想像すると笑っちゃうよね、とっていました。ウソかマコトか、模型ヒコーキに熱心なあまり、かつて女房殿に逃げられたとのウワサのあるコスター氏です。いや、そのことじゃなくて、北欧の地の白夜にちかい薄暮のなかで行われたコスター氏優勝のフライオフシーンについても語りたことがあるんですが、もう紙数がありません。

さて、本題に戻ってボブ・ホワイト氏です。ノンメカ流で意地を張って見せたは哲学か、美学か、それともプライドか。見方はいろいろだろうと思います。もっと俗流になら、我流、偏屈、張情早雲。まあ何とでも言わば言え、時流に逆らってマイウェイ、わが道を歩き通したボブ・ホワイト氏。ボブ氏が生きた模型ヒコーキ人生は、F F やるには最良の時代だったじゃなかったかと、そんな風に思えます。F F 界はこの異才を失ったあともなお、この種のサムライを生み出すふところの深さを保ち得るものかどうか。そこで、「F F の時代はもう終わったのではないか」。冒頭の私見に戻るわけです。

2006.5.10

インドア H L G 滞空記録・世界新達成??

U H L G 元祖・石井満氏の室内 H L G の滞空・世界新記録達成の報告です。我々の屋外 H L G にも多大の影響を与える記録ですので、彼の報告書がまだ整っていないのに無理を言って載せることにしました。大きさは異なるもののスパン 1,160 mm、機体重量 80 g の U H L G が取得高度 30 m で 90 秒飛ぶのですから、屋外 H L G が 60 秒飛ばないわけがない。もし、これが現実なら、屋外機はどこか、何か間違っているのです。

インドア H L G 滞空記録挑戦

石井満・・・・

2006年9月4日、埼玉県のかまがやドームにてインドア H L G の記録挑戦を行いました。また同時に檀上さんによるインドアゴム動力 (F 1 M) 記録挑戦も行われました。おかげさまで 2 人とも何とか新記録を出す事ができました。役員さんをはじめ会場でお手伝いいただいた方々やまた色々とおアドバイスをいただいた方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。翌日には報告しようと思ったのですがあまりの疲れで何もする気が起きず遅くなってしまいました失礼致しました。当日の様子を簡単に報告させていただきます。

9月4日月曜、ドーム内は9時には30度をこえ無風の相当な蒸し暑さです。平日にも関わらずたくさんの方々が会社を休んで応援に駆けつけてくれました。みなさんのご協力を無にしないよう、無い知力と体力の全てを注ぎ込んで頑張ろうと気合を入れます。午前9時、宣言書写真、天井高測定を始めに行います。会場は広さが約90m×130m、天井高が一番高い所で33.5m、天井に張り出した点検通路までは30.3m。天井高30m以上のカテゴリー4の条件を満たします。ハンドランチには十分な高さですがインドアゴム機には物足りない高さです。準備が整い9時半よりハンドランチのトライを始めます。広い会場とはいえ80g以上もある機体は投げを間違えると壁に激突大破も十分考えられるので1.2m前後の同じような性能の機体を5機用意します。最初は一番自信のある1番機でトライ。しかし期待通りには飛ばず、80秒を少し超えるぐらいのタイムしか出ずに苦戦を強いられます。今日はこのまま記録が出ないんじゃないかとほんとに思いました。プレッシャーが掛かります。一休みを入れて機体を変えて再度チャレンジ、今度は良いタイムが出始めます。数投後機体のリリースタイミングが掴めて投げが決まります。10時半過ぎ現記録84.8秒を越える89.4秒を記録しました。ほんと長い長い1時間でした。今までの沈んだ雰囲気はどこへやら。館内は笑いで和やかな雰囲気に変わります。記録を更新出来て役目が果たせ、嬉しいよりほっとしたというのが本音でした。その後は記録が更新できた安堵感からか体もリラックスできて良い投げが決まるようになりました。現記録を超える85秒以上が8回、そのうち90秒以上が3回記録する事ができました。最高記録はスパン1.16mで82gの機体で90.7秒となりました。夢の90秒越えが達成できました。一方檀上さんのインドアゴム動力機(F1M)は11時ごろからの



新記録を出したUHLG

豊富なチャンピオンです。館内の流れを読み太陽が傾いた夕方を狙って最終的にはきっちりと新記録の20分25秒を記録しました。さすがです。過去3年にわたり檀上さんと共に挑戦してきたインドアグライダー(HLG)は今回をもちまして4つのカテゴリー全ての挑戦が終わりました。カテゴリー1(天井8m未満)では世界記録に届きませんでしたでしたがその他のカテゴリー2、3、4は世界記録を作る事が出来ました。始めた時には思いもよらない好結果です。海外のランチャーに比べて体力的に劣る身でも何とか工夫して同等以上の記録を作る事が出来たのが何よりの喜びです。これもサポート、アドバイスなどたくさんの方々のご協力があったからこそです。本当にありがとうございました。

記録挑戦はしばらく休憩です。でも体育館を借りてインドアHLGの飛行会はこれからも開きます。今度は楽しんで飛ばしましょう。みなさんもぜひ一緒にいかがですか。手元にデジタルの写真が

無く添付できません。すいません。写真投稿いただけると嬉しいです。宜しくお願いします。(石井満)

以上で石井満氏の解説は終わりです。あとは解説付きの図面から読み取って欲しいとのことでした。そこで、勝手に読み取って解説することにしました。(図面別添)

蛇足の解説

H L Gフラップ翼ではカテゴリー 1用(天井高8 m未満)のスタン・ストーイの超軽量級室内機「クート」(1978年)が有名である(図面別添)。この機体はスパン40 cm弱、機体重量3 g前後の機体で、よほど優れたバルサが手に入らないと作れない設計であった。細いバルサ胴と最大翼厚2 mm(3 mmからの削りだし)の可動フラップ翼で、投げ上げ時には空気抵抗で翼がフラットになり、滑空に入るとバルサの弾性でフラップ翼になるという仕掛けの機体で、調整が非常に難しかった。又、真上に投げ上げないと風圧で壊れるし、墜落すると胴体ポキンで腕投げて8 m投げ上げるには、相当の練習が必要であった。しかし、高度8 mで79.6秒飛ぶのだから凄い。沈下率なんと10 cm/秒である。但し、この機体は全く屋外には使えなかった。

室内機で屋外用に使えそうな機体としては、当時では大型に属するトム・バスケルのアンダーキャンバー翼H L Gがある(図面別添)。アンダーキャンバー翼は結構な歴史があって、この機体で1978年9月、イギリスのカーディントン(飛行船用格納庫・天井高40 m)で78秒を出している。この機体には昔のランチャーズでは結構影響を受けていて、これに似た機体は今も久保選手が使っている。このH L Gは重量29グラムと室内機としては重量級で、翼面荷重も6グラム近くある。バルサ翼でスパン604 mm、翼弦90 mm、翼厚6.6%、アスペクトレシオ7.2である。厚翼でありアンダーキャンバーを1.5 mmつけ前縁の削ぎ上げも1.5 mmと大きい。且つ、翼上面に乱流用に0.5 mの段差が付けてある。以上参考までに、2例の機体をあげたが、いずれも「野球投げ」のH L Gであった。

さて、これらの機体から30年たった石井満機は、重量80 g、翼面荷重8.4 g、スパン1,130 mm、翼弦100 mm、翼厚7%、アスペクトレシオ13.5となっている。前縁の削ぎ上げが2.5 mmと大きくアンダーキャンバーも3 mmつけている。過去の機体と今回の機体の最も大きな変化は、アスペクトレシオで、昔の7.2から13.5とほぼ倍になっていることである。機体が大型化しているのだから、翼端投げにしても取得高度はドッコイだと思うが、沈下率が30 cm近くになっているのは立派である。

今回は昔と違って野球投げ方式ではなく振り投げH L Gなので、ハイアスペクトレシオ機として、翼端から機体中心までの距離を大きくして発航時の初速をかせぐと共に翼の軽量化を図っている。又、翼のアンダーキャンバーを深くして滑空性能を極限まで上げている。野球投げH L Gの場合でも、投げ上げ時の強度をどう保たせるかが重要な問題である。今回の翼端投げ方式では翼を厚くして、且つ、アンダーキャンバーを深くして断面強度を上げる工夫をしている。また、今回の石井満機ほどの大きさになると、投げの失敗は即・大破になるので、今回は機体を5機用意したのも当然であった。しかし30年前と違ってカーボンパイプが使えるので、重量と強度の点では非常に有利になっている。その他では、空気抵抗の減少対策や対称形にして振り投げ時の機体変形を防ぐ工夫等が見られる。それは図面の書き込みから読み取って欲しい。(図面別添)

さて、ここで屋外H L Gの事を考えると、乱気流対策が必須なので沈下率40 cm/秒は実現不可能と踏んでいる。しかし、せめて45 cm/秒は切りたいものだ。私の場合U H L Gの取得高度はほぼ26 mなので、60秒を超えるには沈下率43 cm/秒にしないとイケない。これもナカナカ難しいので、あと残された方法は下田・伊東哲男式の回転投げである。この方法でせめて30 mの高さにとどくと、なんと滞空性能66秒になるのだが。

U H L Gのらせん不安定について

平尾・・・

U H L Gが競技機として定着して3年、現在ではコンスタントにトップをねらえるレベルにある。しかし、私だけの問題かもしれないが、滑空に入ってから常にらせん不安定の恐怖がついて回る。大宮田

んぼでは問題なく飛ぶ機体が、他の場所、例えば平城京等ではしばしばらせん不安定になって、スパイラルダイブし競技にならないケースがあった。UHLGの投げ出し後の姿勢制御のためには、普通型HLLGの倍近い垂直尾翼容積が必要であるため、滑空時には過大な垂直尾翼が必ず起こす現象である。その解決方法の1つが石井満氏が試作している、垂直尾翼面積を可変にする方法がある。垂直尾翼面積の50%程度の部分を可動にして、発航時は垂直尾翼として働くが滑空に入ると角度が変わって水平尾翼にする方法である。投げ出し時の横からの風圧で発航時は垂直になって、滑空に入ると風圧が減ってバネで水平になる仕掛けであった。

その他の方法としては機体の復元能力を上げる必要がある。そこで他の選手の機体を調べてみると、ほとんどの選手が、一見異常なほどの上反角を付けたり、主翼端での絞りを付けて上反角効果を高めたり、胴を長くして見かけの垂直尾翼面積を小さくしたりしている。ハンドランチャーは天才が多いので、本能的にこれらの工夫をしているようである。又、らせん不安定はV尾翼機には起こり難いようであるし、下面に垂直尾翼を付ける方が螺旋不安定になりにくいようでもあるが、その理屈は不明である。

結局、この現象は胴体上部に垂直尾翼を付けた機体特有の現象のようにも思える。そこで、昔のレポートを調べてみると、上反角が12%以下の機体ではらせん不安定が顕著で、スパイラルダイブが頻繁に起きた様に思う。結果として、乱気流の中で安定飛行させるには上反角は少なくとも15%以上が必要と言えそうだ。もともと、普通のHLLGでも上反角を沢山つける選手が多いが、なかでも「トミヤカエリ」の富谷氏のHLLGは凄まじい上反角で、翼端はほとんど垂直に近かった印象がある。しかし、私は上反角を増やすことは大嫌いで、何とか少ない上反角で済ませたい。上反角が大きいと揚抗比も悪くなるはずだが、実際にはスゴい上反角でも見事な滑空する機体が多数あるのも驚きである。そこで上反角が少ない場合に、どのような現象が起こるのか整理してみたい。

1. 上反角が10~12%の場合は、しばしば投げの頂点での返り後、一度ガクッと姿勢を崩して高度下げながら滑空旋回に入ることがままある。この場合、重心位置や向角をいじってみても改善されない事が多い。しかし、上反角を増やしてやると、高度を落とさず綺麗に滑空に入るようになる。

2. 投げからすなおに滑空に入るが、その後の滑空が不安定でしばしば姿勢を崩してピッチング気味になりやすく、旋回が安定しない事がある。この場合も他の調整ではどうにも制御出来ず、上反角を増やしてやると嘘のように直ることが多い。

3. 昨年、カーボンUHLGを作ったが、どうにもうまく飛ばない。もともと翼端での絞りが少ない平面型だが翼断面が悪いのか、重心位置、尾翼面積等々、1年ほどいじり回したがダメである。そこで翼の上反角を改造することにした。第1段は外翼を切断して翼端上反角を10%(もともとこれがミス)から12%に増やした。多少良くなつたものの今一つ納得出来ない。仕方なく翼の中央も切断してセンター上反角も増やして16%した。その結果滑空安定はほぼ満足出来る状態になった。ここまでは良かったが高度が取れない。これは別の問題だが気に入らない。

カーボン翼の場合、カーボンDボックス構造となるので翼端で翼厚を極端に(例えば3mm以下等)薄くできないし、翼巾もあまり絞ってないので上昇抵抗が大きいのである。カーボン翼は丈夫であるが平面型も制限されるし、翼断面もバルサほど微妙にはいじれない。残念ながらUHLGにはバルサ翼の方が利点が多いと結論する。ハンドランチにはバルサ翼がよく似合う。

4. UHLGを製作し始めて約5年たち製作機数は20機を超す。しかし、手元に残っているのは7機のみである。無くなった機体、破損で使えなくなった機体、又、これらの改修、贈呈した機体等々が13機ある。UHLGの初期は破損が多く、特に主翼と胴体のノーズ部分の大破が大部分を占めていたが、その後は主翼バルサの疲労骨折が起こり始め、製作から3年がUHLGの寿命であった。しかし、作り方と投げ方の改良等で、現在はもう少し長持ちしそうである。但し、野球投げほどの機体の寿命は無いと断言出来る。UHLGはバルサ翼の先端を持って投げるので、複雑な力がかかってバルサがグスグスになる様だ。1度亀裂が入り出すとエポキシで接着しても他の部分が破壊し始める。この事は過去にF1Hグライダーでバルサムクの翼をしばらく使っていた時、3年ほどでサークリングからの離脱時に翼の付け根部分から疲労骨折して全滅した経験がある。この場合の翼はバルサの上下面をカーボン補強

していたが、芯のバルサがグスグスになって破壊した。それと同様のことがUHLGでも起こる筈なので、補強する桧、又はカーボン材をどの様に使うかが問題である。

雑談天国

接着剤とGM

佐藤幸男・・・

GM（ジェネラル・モーターズ）は世界一の自動車メーカーから、今やトヨタの追撃を受け厳しい立場に追い込まれています。日産・ルノー連合の提携は決裂しましたが、こんな苦境が想像できないようなGMの強さを、かつて目の当たりに経験しました。

古い話になりますが、30年前の私は、自動車メーカー（H社）で購買担当をしていました。その担当の一部で接着剤も購入していました。購入目的はフロントガラスの接着方式の採用の為でした。

当時のフロント（F）ガラスの取付は、ゴムをパッキンとしてハメ込み構造が主体でした。そのため衝突事故等によりFガラスが外れて飛んでしまったとか、また、ガラスと車体の立て付けがよくない車は、雨もれとかキシミ音が出る物がありました。この解決のため、自動車メーカーは色々と研究をしていたようですが、単純なようではなかなか実現できなかった、、、地味な研究開発をGMはして「ダイレクト・グレーチング」工法と言うシステムを完成させました。この方法の特徴は、ウレタン系接着剤を使ってゴム・ガラス・車体を接着する方法です。これにより、車の安全性の増大、及び剛性強化が図れましたが、特に実用化に手間取ったのはプライマーと接着剤のマッチングと管理面（湿度・温度）の対応に大変苦労した様です。その理由は、ハメ込み方式はコンベアー上でFガラスを取りつければ即、規定強度がでますが、接着方式はコンベアー上での強度が自然乾燥のため、一定時間が経過しないと強度が出なかったことです。この接着剤の採用に伴う、私のサプライズは、GMがこれを1つのシステムとして、この接着剤を使うと取付方法を含め「構造特許」にした事です。その為に世界中の自動車メーカーが、この特許に抵触したからです。H社も国側の特許制限に基づき、接着剤メーカーを経由しGMに特許を支払った経緯があますが、当時のGMは、昨今の状況から考えられない強さでした。

飛行場探しの思い出

平尾・・・

30年ほど前、石井英夫氏をはじめ今の関東の主たるFFメンバーは多摩ニュータウン造成地でヒコーキを飛ばしていました。しかし、造成地が完成するにしたがい、飛ばせなくなって他の場所を探すようになりました。その頃、千葉の埋立工事が進んで土地が海上に姿を現しました。昭和39年頃のことです。場所は習志野から千葉にまたがる海岸沿いの全長8km、奥行き1～2.5kmと言う広大な砂地でした。高速道路はまだ無く14号のみで、全域が柵で囲われていました。しかし、宅地整備が進み人が住み始めるにともない、広大な砂地に入れるようになり、FF機がそこで飛び始めました。その頃私は千葉の埋立地に住むようになり、コツコツとやっていた趣味のオーディオは移転でスッカラカンの私には出来なくなりました。そこで元々ヒコーキ好きだった私の為に、友人が勝田さんのHLGの資料を送ってくれた。こちらはお金はかからないし、そこらじゅう野原なので早速バルサ板でHLGを作り飛ばしに行きました。はじめはたった1人で、休みごとにで真っすぐ投げては返らずストーンを繰り返していました。壊れにくい場所を求めて近所をウロウロする内に、今はめったに会えない来海、片岡、浅野、古矢氏達、及び始めたばかりの相沢さんと出会いました。その人達に連れられて大型FF機の集団を見てびっくりしました。昔のヒコーキと随分と違っていたからです。

最初飛ばしていた場所は花見川の東側、海の近くでしたが、やがて手狭になり花見川の西側に移動しました。そうこうする内に私もHLGが飛ぶようになり、見よう見まねでR級ゴム動力機を1晩で作ったりしてました。その後ウェークにはまるのに、そんなに時間はかかりませんでした。

その頃の飛行場は、今幕張の超高層ビルが林立する辺りです。当時は広大な砂原でしたが、埋め立てたばかりの土地はドンドン沈下するので、安定させるのに10年以上はかかるのです。おかげでしばらくは年中飛ばせました。私の家から自転車ですら20分ほどの所で、当時の日本FF界の精鋭がモクモクと

練習に来ていました。又、当時近所には自転車で通えるメンバーが結構いたのですから驚きです。その頃はまだ高速道路やディリーストアーもなく、手弁当て朝早くから来ていました。近所に住む我々は、昼飯は家に食べに帰ってました。嘘のようなホントの話です。

ヒコーキにはまってみると、意外と競技会が無いのも驚きでした。大きな競技会は高低差が50m以上もある御殿場での日本選手権と東京選手権があるのみで、淋しい限りでした。ですから当時のH L G記録会は貴重な競技会だったのです。

そこで多少のコネがあったので、千葉で競技会をするためにアチコチと話をつけ、今の海浜幕張駅付近で国際級からH L Gまでの競技会実施にこぎつけました。そんな事から、以降は飛ばすばかりではなく運営にも関係するようになり、ついには幕張で日本選手権をやり、あとは泥沼です。当時は仕事にかこつけては県庁や市に出かけては、コネ作りに精を出しました。

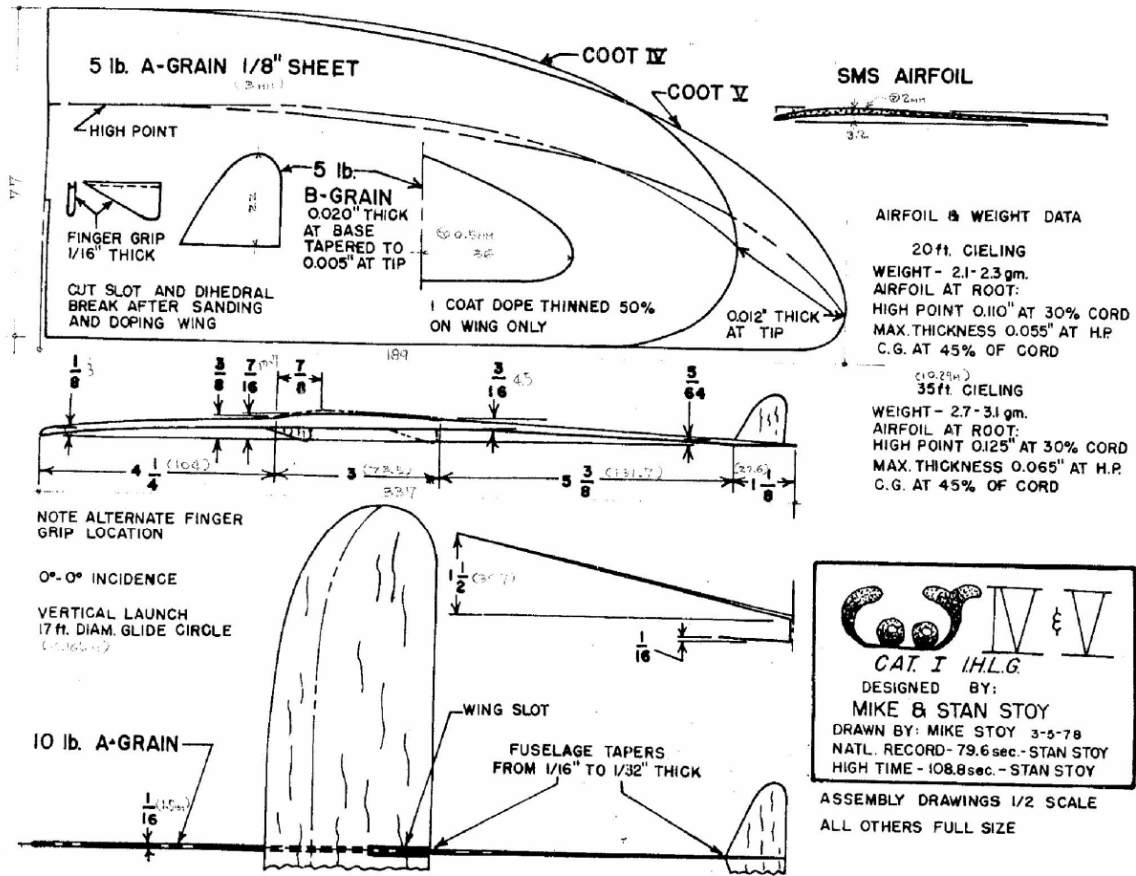
とにかく飛ばす場所が欲しいので、割りと近くの海上自衛隊下総航空基地を借りようと思いかけてあります。当然、守衛は門前払いをしようとするので「相談があるので司令官に合わせろ」とガンバルと通してくれました。基地指令官の部屋に行く途中、いくつか佐官の部屋が見えたので覗くと、11時半頃なのにみんな飯を食べてました。変則的な勤務時間によるのかも知れませんが「アア、これじゃ日本は負けるわ」と当時は思いました。結局、会ってくれたのは副司令官でしたが、いろいろ話す中で「模型飛行機の競技会場が無いので、ここを使用出来ないか」と言うと、下総基地は成田空港の緊急避難場所なので、24時間待機状態にあり無理との返事でした。しかし、そのあと基地全体を丁寧に案内して、説明してくれました。当然、習志野基地もねらいましたが、あそこは草が深く使いにくい。今では当時のコネもみんな亡くなったり退職しました。

又、役所からアチコチの計画地図を手に入れては、仕事上の土地調査と称して飛行場の調査に行き、その成果として過去にランチャーズ合宿をやっていた千葉ニュータウンを見つけました。また、候補地として見つけた干潟の海軍飛行場跡が国有地だったので、当時の大蔵省まで掛け合いに行きOKを得ました。しかし結局は狭かったのがダメになりましたが、その延長上で出てきたのが、今の日本選手権をやっている干潟です。その他では松戸、越谷、宇都宮等、いずれも開発地か旧飛行場跡でしたが、狭い日本をかけずり回ってヒコーキを飛ばす場所探しをした時代がありました。あれから年は取りましたが、今では新潟でも飛ばせるし競技会も多く幸せな時代です。

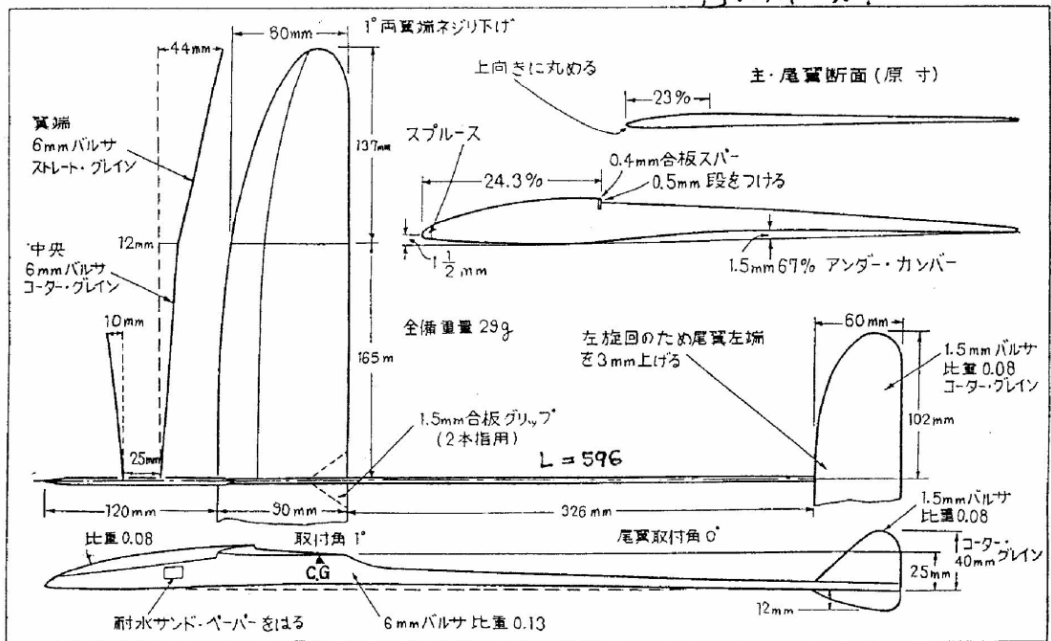
編集後記

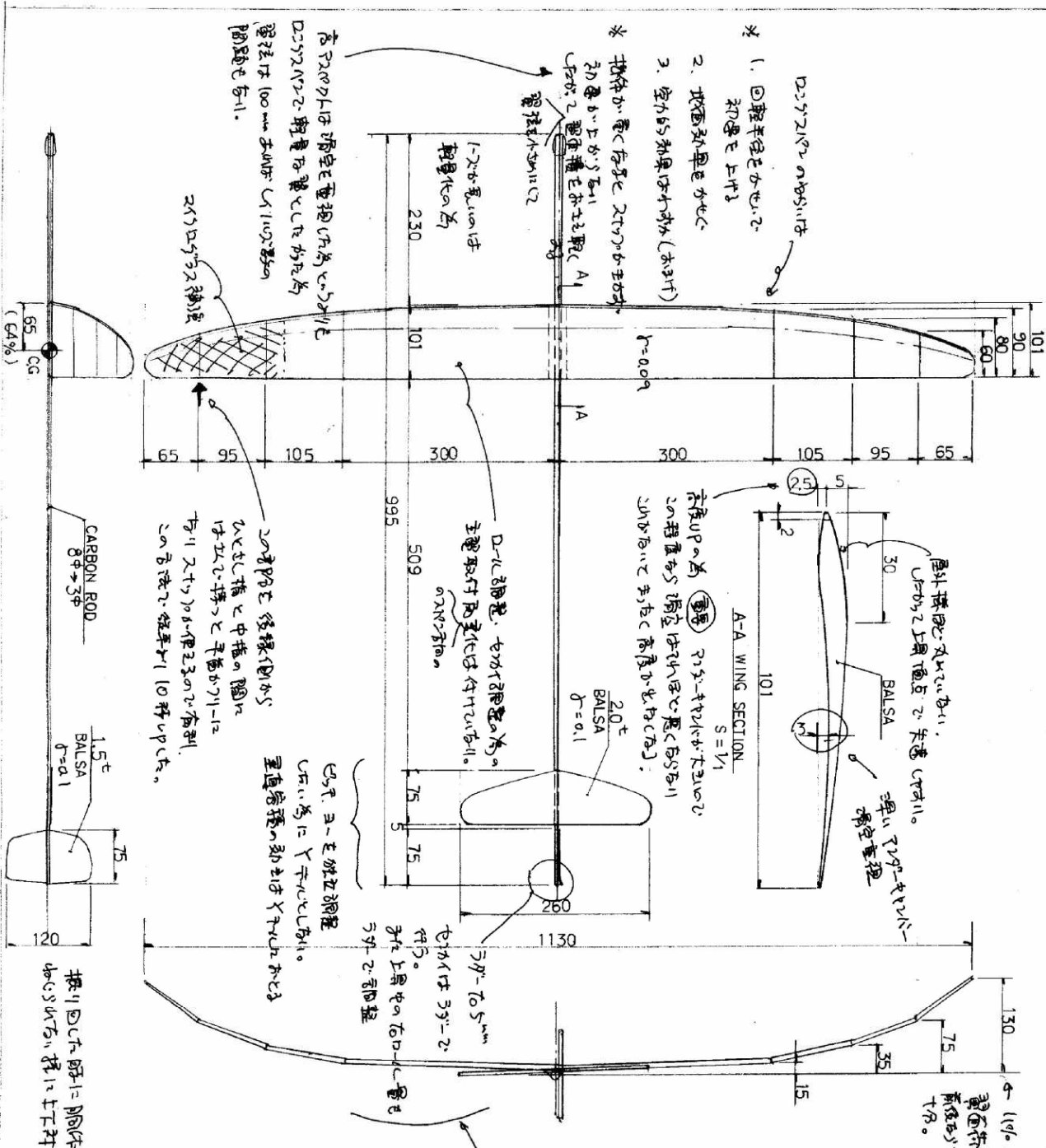
昨年来、長年お世話になった「ちびた号」に代わる公園用H L Gを模索してきました。新提案を待ってしまいましたが、誰も・・アキマヘン。やむなく、自作自演で「500円H L G」を提案し、機体も5機ほど作ってみました。その一部を何人かに飛ばしてもらい意見を聞きました。「ちびた号」だとストレスが残るのですが、25g H L Gの感想は「投げやすい」「H L Gを投げた気がする」「手頃な感じ」等々で、一皮むけた感じのようです。どうやら好評なので来年からは、5～7月間は機体重量25g以下のH L

Gを公園用として記録会を行いたいと思います。



「U」コン技術, 大り転載





主翼面積 $S = 9.5 \text{ dm}^2$
 重量 $W = 80 \text{ g}$
 翼本高 $\sqrt{S} = 8.4 \text{ dm}$
 翼外 $\lambda = 13.4$
 計算攻下率 $\omega = 0.385 \text{ w/s}$
 計算揚程時間 $T = 87.4 \text{ sec}$
 ($U_0 = 40 \text{ m/s}$)
 水平尾翼容積 $V_v = 1.17$
 垂直尾翼容積 $V_v = 0.050$

CLAIMENTS	
DIRECTING OFFICIAL	
NAC OFFICIAL	

2006.9.14 90.7 sec
 TOTAL WEIGHT : 80.0 g

Type 2P
 FIN. CAT4
 S = 1/5
 Mitsuru ISHII

THREE VIEW DRAWING